

今年度の活動報告等について

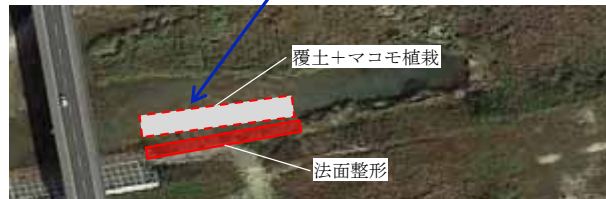
1. 出島地先への土砂投入

【神戸川】

ハクチョウ等の指標大型水鳥類の採食環境の改善に向けたマコモの試験植栽を実施。



【実施箇所】



【マコモの生育状況 (H29.8)】



【斐伊川放水路分流堰にコウノトリが飛来】



【斐伊川 出島地区】

斐伊川河口の掘削残土を活用して、浅場湿地の造成を実施。



【土砂投入状況 (H29.6)】



【斐伊川への飛来状況】



【赤川への飛来状況】



2. 第2回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議への参加

結果概要

- 昨年発足した「水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議」は今年度5市町（大崎市、野田市、雲南市、奥出雲町、飯南町）を加え、26市町村が会員となり、第2回の会議が開催された。
- 各出席者からは、生態系ネットワーク形成に関して取り組んでいる事例の紹介があったほか、全国的な取組みの展開に向けて自治体間の更なる連携や情報共有の重要性が改めて強調された。

全国会議会員

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|---------------|
| ・長沼町 | ・ <u>大崎市</u> | ・坂東市 | ・小山市 |
| ・野木町 | ・鴻巣市 | ・川島町 | ・ <u>野田市</u> |
| ・我孫子市 | ・東庄町 | ・いすみ市 | ・越前市 |
| ・豊岡市 | ・米子市 | ・境港市 | ・松江市 |
| ・出雲市 | ・安来市 | ・ <u>雲南市</u> | ・ <u>奥出雲町</u> |
| ・ <u>飯南町</u> | ・鳴門市 | ・阿南市 | ・西予市 |
| ・四万十市 | ・出水市 | | |

※下線部は、新規加入市町

設立趣旨（一部抜粋）

- 国土交通省では、河川、湖沼等において、「多自然川づくり」を基本として、湿地再生や魚道整備等の自然再生を進めるなど、水域を中心とした生態系ネットワークの形成に努めてきた。
- 生態系ネットワーク形成を進める上で、地域社会との関わりを持ち、流域での多様な主体と協働した取組みの推進が必要であり、首長の役割は重要。
- 「水辺からはじまる生態系ネットワーク」を全国的に推進していくためには、全国の首長が互いに情報を共有し、輪を広げていくことが重要となることから、本会議を発足。

開催概要

- ◆日時 平成30年1月11日（木）12:30～13:45
- ◆場所 東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
- ◆出席自治体 16市町
長沼町、大崎市、小山市、鴻巣市、川島町、野田市、我孫子市、いすみ市、豊岡市、松江市、出雲市、雲南市、鳴門市、阿南市、四万十市、西予市
- ◆国交省出席者 山田 邦博（水管理・国土保全局長）
森川 幹夫（河川環境課長）
奥田 晃久（河川環境保全調整官）



第2回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議の様子

3. 水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム2017への参加

開催概要

- ◆日時 平成30年1月11日（木）14：00～17：15
- ◆会場 東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
- ◆目的 生態系ネットワークの重要性や先進的な事例について広く紹介し、普及・啓発を推進すること
- ◆出席者 約400名
- ◆主催 国土交通省 ※昨年度に続き2回目の開催
- ◆共催 農林水産省、環境省 ※今年度より開催

今年度は、3省庁協同で初開催し、3局長より挨拶いただいた。



山田 邦博
国土交通省水管理・
国土保全局長



亀澤 玲治氏
環境省自然環境局長



別所 智博氏
農林水産省 技術総括審議官
兼 農林水産技術会議 事務局長

プログラム

- ◆基調講演 中貝宗治氏（兵庫県豊岡市長）
- ◆地域における取組紹介
 - 柏 敏春氏 舞鶴遊水地での取組み（北海道長沼町）
 - 竹村 昇氏 れんこんブランド化の取組み（徳島県鳴門市）
 - 田邊 達也氏 観光分野からみた期待（島根県出雲市）
- ◆パネルディスカッション

「生態系ネットワークを通じた地域活性化 ～取組みが切り拓く可能性～」

コーディネーター 中村 太士氏（北海道大学教授）

パネラー 中貝 宗治氏、柏 敏春氏、竹村 昇氏、田邊 達也氏、森川 幹夫
- ◆要旨
 - 生態系ネットワーク形成の視点は、農業や観光の魅力や付加価値の向上につながり、人と生きものが共生できる環境づくりを進めていく過程で、地域の良さが見直され、賛同の輪が広がっていった。
 - 地域を動かすためには、現場での仲間を増やす・巻き込むことが大切。また、ボトムアップの取組みももちろん大事だが、トップダウンの取組みもやはり重要である。トップ（首長）が現場に足を運ぶ機会をつくることも時に大事である。
 - 流域全体が連携して取り組んでいくことが重要であることを改めて確認。治水などとのバランスも考えながら、流域に求められる川づくりを進める。



柏 敏春氏



竹村 昇氏



田邊 達也氏



中村 太士氏



中貝 宗治氏



会場は立ち見が出る盛況ぶり

4. 圏域内イベントへの参加等

第24回松江市環境フェスティバル

【開催概要】

日 時：平成29年11月5日（日）10：00～15：00
会 場：くにびきメッセ（松江市）
主 催：松江市、まつえ環境市民会議（2017松江市環境フェスティバル実行委員会）
後 援：島根県、松江市教育委員会、山陰中央新報社、TSK山陰中央テレビ、BSS山陰放送、NKT日本海テレビ、NHK松江放送局、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン株式会社、一般社団法人共同通信社松江支局、時事通信社松江支局、朝日新聞松江支局、読売新聞松江支局、中国新聞松江支局、毎日新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、新日本海新聞社、株式会社島根日日新聞社

【実施内容】

環境に関心の高い市民、NPO、事業者、行政などが、環境関連技術力・商品の紹介、取組みの情報発信や交流など、楽しみながら学べる場を提供することにより、市民の環境意識啓発の一環として実施された。ステージイベントとブースコーナーが設けられ、本協議会ではブースコーナーにおいて、斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みや大型水鳥を紹介した写真パネル、等身大パネルを設置し、ブースを訪れた来訪者に対して、本協議会の取り組みや大型水鳥類に関する解説を行った。



ブースでの様子



イベントチラシ



第3回土木の日記念イベント

おりがみワークショップ「おりがみで水鳥を折ってみよう！」

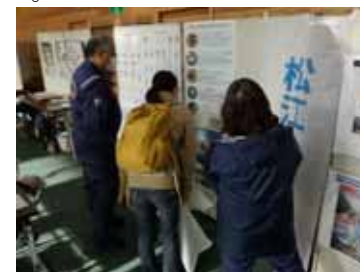
【開催概要】

日 時：平成30年11月25日（土）9：30～12：30
会 場：上塩冶スポーツセンター（出雲市）
主 催：土木の日実行委員会（島根県出雲地区建設行協会・しまね建設産業イメージアップ女子会・国土交通省出雲河川事務所・島根県出雲県土整備事務所・出雲市）、ヒーホー・ステーション
協 賛：島根県土木施工管理技術士会出雲支部、出雲地区生コンクリート共同組合、島根県測量設計業協会、（株）ケイシヨウ

【実施内容】

子どもたちをはじめとした地域の方々に、当地を訪れる大型水鳥類の魅力やその重要性を知ってもらうため、環境教育的な要素も含めた普及広報を行うことを目的に実施した。イベント当日は、未就学児から小学生までの16名が参加した。

イベントでは、ブースを設けて待受け型方式で、来訪者が訪れるごとに、おりがみの折り方の解説をした。あわせて、斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みや大型水鳥を紹介した写真パネル、等身大パネルを設置し、来訪者に対して解説を行い理解を深めていただいた。



大型水鳥類について来場者へ解説



ハクチョウ、ガンの折り紙を折っている様子



大型水鳥類のパネル設置状況



大型水鳥類の等身大パネルの設置状況

ラムサールシンポジウム

[開催概要]

日 時：平成29年12月9日（土）13：30～17：00
 会 場：松江テルサ テルサホール（松江市）
 主 催：島根県、鳥取県
 後 援：斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類による大型水鳥類と
 共に生きる流域づくり検討協議会、中海・宍道湖・大山圏域市長会
 参加者：約250人

[実施内容]

・先進地事例発表

＜テーマ＞コウノトリと共生するまちづくり～ラムサール条約湿地
 「円山川下流域・周辺水田」の取組～
 講師：井上 浩二氏（豊岡市役所 コウノトリ共生課主査）

・中海・宍道湖、豊岡で活動する子どもたちの活動発表

・中海での自然再生の取組とアジア湿地シンポジウムの報告

発表者：國井 秀伸氏（中海自然再生協議会会長）

・基調講演

講演者：山本幸正氏（株式会社ワイバード 代表取締役）
 演 題：鳥がもたらす経済効果～バードウォッチングツアーの現場から～

・パネルディスカッション

＜テーマ＞斐伊川水系における大型水鳥と共に生きる地域づくり
 ＜コーディネーター＞ 舟越幹洋氏（(株)山陰中央新報社 出雲総局長）
 ＜パネリスト＞

佐藤仁志氏（(公財)日本野鳥の会 副会長）
 神谷 要氏（米子水鳥公園 館長）
 田邊達也氏（神門通り甕りの会 代表）
 奥森隆夫氏（NPO法人未来守りネットワーク 理事長）
 山元幸正氏（株式会社ワイバード 代表取締役）

はじめに、兵庫県豊岡市井上氏から豊岡市で進められている、コウノトリをはじめとした生きものと共生したまちづくりの取組状況について発表があった。次に、雲南市、豊岡市の子どもたちから、各市のコウノトリの生息環境づくりやコウノトリに関する学習内容についての取組発表があった。また、中海自然再生協議会会長國井氏からアジア湿地シンポジウムでの発表内容について報告があった。さらに、基調講演としてバードウォッチング専門旅行会社の株式会社ワイバード代表取締役山本氏より、全国でのバードウォッチング事情や外国人バードウォッチャーの動向、ガイドについてはボランティアガイドだけでなく地域に根付いたプロガイド養成の必要性などについて話題提供があった。最後のパネルディスカッションでは、雲南市で繁殖したコウノトリをはじめ大型水鳥類を地域資源として活かし地域づくりに役立てる方策等について議論が行われた。その中では、多様な水鳥が訪れるという魅力を再発見し、官民一体で取り組む必要性について確認された。



開会



先進地事例発表



中海・宍道湖、豊岡で活動する
子どもたちの活動発表



中海での自然再生の取組と
アジア湿地シンポジウムの報告



基調講演



パネルディスカッション



生態系ネットワークに関する広報記事
平成29年12月1日 山陰中央新報15面

広報ツールの作成 (POP・リーフレット)

【目 的】

ハクチョウ類やガン類の初渡来が確認されたタイミングにおいて、公共施設や企業をはじめとした様々な主体が広報ツールを用いて圏域全体で祝賀ムードを盛り上げることににより、圏域を訪れた観光客のクチコミによる広報、集客効果を期待するとともに、地域住民の普及啓発にも役立てることを目的とした。

【設置先(平成30年2月現在、五十音順)】

出雲ホテル連絡協議会11団体（出雲ロイヤルホテル、出雲ステーションホテル、ホテルながた、ホテル武志山荘、ホテルリッチガーデン、ホテルサンヌーベ、ツインリープスホテル出雲、ひらたメイプルホテル、出雲空港ホテル、出雲フォレストホテル、ニューウエルシティホテル）、かくれ庵、カフェリンクタカセガワ、なぎら長春堂、農事組合法人ゆとりの里下古志ファーム13、吉岡製菓、出雲駅前温泉らんぷの湯、ラクレームデクレーム



大型水鳥のミニリーフレット



キャンペーン用のポップ



想定問答



ホテルながたの受付
カウンターでの設置状況